

三重大学教育学部

研究紀要

第48巻

人文・社会科学



目次

日本の地名標識におけるローマ字表記の問題点	鏡味 明克 (1-7)
形容詞の連体、連用、終止用法の出現頻度と意味との関連性をめぐって — 「高い」「広い」「寂しい」を例として —	丹保 健一 (9-18)
徳としての正義 — トマス・アクィナスの正義論成立の場 —	桑原 直己 (19-31)
Man and Citizen:Hobbes's Moral and Political Philosophy	秋元ひろと (33-57)
報告 I	野上阜三博 (59-80)
伊勢大神楽のお囃し研究	高橋 隆二 (81-86)
『フロス河の水車場』のユーモア	篠 三知雄 (87-120)
キリスト十字架像を教室に取り付けるという学校規則をめぐる判決 (2完) — 連邦憲法裁判所第一部決定1995年5月16日1 BvR 1087/91 —	手塚 和男 (121-140)
リゾート開発の経緯と課題	宮崎 清 (141-150)
家事の意味について	乗本 秀樹 (151-158)
意思決定の立場から見たファジイ事象の概念とその応用	植村 芳樹 (159-167)
源氏物語「あて」について	藤田 菖畔 (169-178)
三重県の仏像 (八)	松山 鐵夫・赤川 一博・瀧川 和也 (179-269)

三重大学教育学部

1997